

開催日時：2002年10月2日(水)13:30~17:10

場所：ぱ・る・るプラザ京都6階会議室6

参加者数：委員6名 河川管理者17名

#### 検討内容および決定事項

##### 河川管理者からの情報提供

河川管理者より資料3-2を用いて、水位管理の考え方についての確認、ダム水位管理と利水安全度、生態系・景観・舟運等に必要河川維持用水の現状の考え方について情報提供が行われ、委員と河川管理者の間で意見交換が行われた。

- ・河川の物理環境は水と砂が動けば改善されて、多様性が生まれてくる。川の物理環境を整えるために、土砂移動と水位変化を連動させた管理を流域全体のダムによる連携によって行っていくかなければならない。

##### 綾教授(大阪工業大学)からの情報提供

綾教授より資料3-1を用いて、新淀川(大堰下流汽水域)の環境・水質・生態系について情報提供が行われ、質疑応答を交えた意見交換が行われた。

- ・淀川で干潟を取り戻すなら、汽水域しかない。ここはこれまで生態系的な観点から見れば、ほとんど見捨てられていた地域だったが、淀川にふさわしい汽水域にしていきたいと考えている。
- ・流域委員会では汽水域について、主に利用面での議論が中心となっていたが、自然環境の保全や回復についても考えていかなければならない。

##### 西野委員からの情報提供

西野委員より資料2-1「日本における干潟生物とそこに生息する底生生物の現状 / WWF Japan Science Report Vol.3 1996」に従って情報提供が行われ、淀川汽水域における干潟の重要性について説明された。

##### 最終提言に関する意見交換

資料1-1「水位管理WGのまとめ(案)」を用いて、最終提言に向けた水位管理WGのとりまとめについて意見交換が行われた。

- ・水位変化によって、できるだけ自然の河川に近い環境に近づけることが水位管理の目的である。
- ・生物の生息環境は中小洪水によって仕上げられるが、そのためにはどれだけの水を流せばいいのか、その結果としてどんなことが起きるのか、それを検証するための継続的なモニタリングとフィードバック(アダプティブマネジメント)についても書いておく必要がある。
- ・天然湖沼である琵琶湖の生態系を最大限に配慮した水位操作の必要性、土砂移動と水位変化による河川の物理環境の改善についても、触れておくべきだ。
- ・WGを通じて明らかになった問題点やその検討内容についても、方向性は出せないかもしれないが、具体的に記述した方がよい。

##### 河川管理者からの情報提供

淀川水系の湯水の状況について、河川管理者より情報提供が行われた。

##### 今後のWGのスケジュールについて

- ・最終提言に向けた水位管理WGのまとめは、メーリングリストを通じて意見交換を行い、最終的にリーダーがとりまとめる。必要な場合は、委員のみで再度WGを開催する。

このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。